

資料②

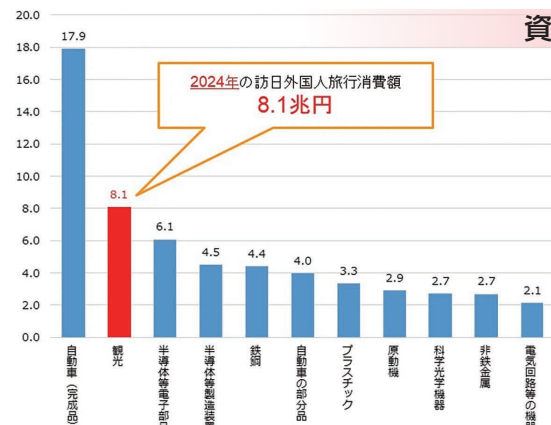
日本人1人当たり
年間消費額
135万円

定住人口が
1人減ると
消費額
135万円減
交流人口に
置き換えると
・・・



▲出典：観光庁「観光がもたらす経済効果」(2023年)

資料①



▲出典：観光庁「インバウンド消費額の製品別輸出額との比較」(2024年)

2 観光立国実現へのカギ

世界各国から日本への観光需要が高まる中、ゴールデンルートや、一部の観光都市への観光客集中によるオーバーツーリズムが問題となっています。一方で、東北地方への訪日外国人観光客の宿泊数は、国全体の1、2%台に留まっています。

東北地方は、都市部にはない自然と伝統文化や郷土料理、そして何よりも人と人とのつながりが深く、ホスピタリティが豊かな地域です。訪日外国人観光客のニーズに応え、オーバーツーリズムの受け皿として、十分に役割を果たせる地域と言えるでしょう。

わが国が目指す観光立国の実現には、東北地方がオーバーツーリズムの受け皿になるか否かが、大きく影響すると言っても過言ではありません。

「観光」の言葉は、中国の四書五経の一つ「易経」の一文である「観国之光」が語源とされている。

その地に生きる人、自然や文化、産物などの「光」を「観」るとは・・・

1 日本の観光産業

皆さんは、「観光」というと、どんなイメージをお持ちですか？ 自然や歴史に触れる、食を楽しむ、普段できない体験の機会など人それぞれだと思います。そして、非日常の時間を楽しむという点については、共通した魅力の一つと言えるでしょう。

「観光産業」は、宿泊、交通のほか、観光客の立ち寄る飲食

3 可能性を秘めた観光産業

全国的にも人口減少が避けられないわが国において、多くの自治体の財政事情は、税収の減少や、高齢化による扶助費の増加、子育て支援施策の無償化の流れなど、収支バランスは厳しい状況にあります。そのような中、観光産業は市外から外貨を稼ぎ、商工業の発展、雇用に寄与できる総合産業として、その効果は多岐に渡ります。

観光産業は、すぐに成果が出るものではなく、数年かけた継続投資が不可欠です。その観光産業をどう捉え、どう取り組むかによって、自治体の財政面にも影響する時代が既に到来しています。現に、京都府京都市は、観光予算に対し、30倍の税収効果があると推計し、地域経済の活力と雇用を支える重要な役割と位置付けています。(観光施

店や小売店はもとより、提供する食を支える農業、土産品の製造・販売に携わる商工業など、さまざまな分野と関連し、雇用も創出する総合産業です。

また、観光庁のデータによれば、日本の観光産業は訪日外国人観光客の増加により、輸出産業の分野で半導体等電子部品産業を上回り、自動車産業に次ぐ第2位と「稼ぐ力のある産業」に急成長しています(資料①)。

また、1人当たりの年間消費額で計算すると、定住人口1人減少分を外国人旅行者6人分、国内旅行者(宿泊)21人分、国内旅行者(日帰り)71人分で補うことができる試算されています(資料②)。「観光は成長戦略の柱、地域活性化の切り札」として、宮城県でも宿泊税を導入し、より強固な基幹産業への成長を促そうとしています。

策の見える化冊子「みんなであつくる京都観光」より)

また、互いの国を行き来するインバウンドやアウトバウンドは、異国の人々との出会いや、その文化に触れる機会を創出し、身近で親しみを持てる国へ変える力もあります。

観光がもたらす影響とは、数字で表せるもの、表せない心の内面的なものなど多種多様であり、たくさんの可能性を秘めた産業と言えるのではないのでしょうか。



※1「ゴールデンルート」 外国人観光客に人気のある東京、箱根、富士山、名古屋、京都、大阪などを巡る広域の観光周遊ルート

※2「オーバーツーリズム」観光地への訪問客がキャパシティを超えて押し寄せることで、地域住民や自然環境、景観などに悪影響を与える現象